

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成30年5月分）

【景況感】

景気は、一部に弱さも見られるが、緩やかな回復が続いている。

【製造業】機械工業を中心に持ち直しの動きが継続

○製造業は、主要産業の鉱工業生産指数は、約1年ぶりの高水準と堅調に推移しており、各企業からはこれまで同様に好調を示すヒアリングも多く聞かれている。しかし、円安や原油高を背景としたコスト上昇による収益圧迫や、深刻な人手不足問題により、利益創出機会を逸している企業も多い。

【地場産業】厳しい状況が継続している

○地場産業は、売り先の減少や消費の縮小に加え、慢性的な人手不足により全体的に厳しい状況が継続しており、持ち直しの動きが見られない。

【設備投資】業績好調な企業を中心に、底堅く推移している

○設備投資は、国内金属工作機械受注額が堅調に推移する中、ロボットや IoT の導入による合理化・省力化に加え、工場新設等増産目的の投資も増えつつある。

【個人消費】全体的に緩やかな回復に留まっている

○個人消費は、ドラッグストアが牽引し小売店販売額は小幅ながら増加しているものの、現金給与総額や消費支出の増加幅が縮小していること、実質賃金は下降の兆しを見せていることなどから、全体的に落ち着いた推移となっている。

【観光】観光客数、宿泊客数ともに前年同月を下回った

○観光は、前年と比較し、日の並びの関係で休日の日数が1日少なかったが、テレビで取り上げられるなどして話題となった施設が複数あり、全体として観光地、宿泊客数ともに前年比微減となった。

【資金繰り】良好な資金繰り環境の一方、小規模企業には厳しい状況が継続

○企業の資金繰りは、金融機関貸出残高は引き続き増加傾向にあり、ヒアリングにおいても特段の環境変化は見られない。一方で、小規模企業では、人手不足や利益圧縮を背景に、依然として厳しい状況にあり、倒産件数も増減を繰り返している。

【雇用】雇用情勢の改善とともに、人手不足感の拡大が継続している

○雇用面は、有効求人倍率等の関連指標が高止まりする中、売り手市場による大手志向の求職者も増加しており、求人と求職のミスマッチが見られ、県内中小企業にとっては、人材確保の厳しさから人手不足が慢性化している。